

2019 年度第 3 四半期 決算説明会 Q&A

Q: スマートフォン市場向けで売上が増加した製品と減少した製品それぞれがあったと思いますが、製品別に第 2 四半期から第 3 四半期にかけてどのような変化がありましたか？また、第 4 四半期にはどのような変化が想定されますか？

A: 第 2 四半期から第 3 四半期では、コンデンサや高周波モジュール、近距離無線通信モジュールがハイエンドスマートフォン向けで伸びています。第 4 四半期は季節的に落ち込む時期でもあり、モジュールは第 3 四半期と比較して売上げが大きく減少する見込みです。コンデンサも季節的に売上が落ちますが、当初の計画よりは堅調に推移すると考えております。ただし、新型コロナウイルスの今後の動向によっては状況が変化する可能性がございます。

Q: コンデンサの中で売上が増加した用途は何ですか？また、コンデンサの価格動向や来年度の能力増強計画を教えてください。

A: 通信向けは全体として増収となります。中でも基地局向けが大きく伸びました。価格動向としましては、10 月に発表しました業績予想と比較して想定通りに推移しております。来年度の能力増強計画については、予算策定前で確定はしておりませんが、能力負荷ベースで+10%の能力増強を予定しております。

Q: 対前年同期比で見た場合の 9 か月累計の営業利益の増減要因別内訳を教えてください。

A: 営業利益は合計で 242 億円減少しております。主な内訳としましては、増益要因として合理化効果(+400 億円)や原材料の売却益(+72 億円)はあったものの、生産高減少による操業度損(▲360 億円)や第 2 四半期に計上したバッテリー事業における減損損失(▲198 億円)、売値下げ(▲180 億円)といった減益要因もあり、結果として前年同期比で減益となりました。

Q: 第 3 四半期における 5G のインパクトを定性的に教えてください。

A: 5G が業績に与えた影響がどのくらいかという数字はございません。5G 向けだと思われる基地局向けが大きく増加しております。

Q: 自動車向け MLCC の流通在庫の状況を教えてください。

A: 直販部分の在庫調整は解消したと考えております。代理店での在庫調整は解消に時間がかかっており、解消時期が年度末まで延びる見込みです。

Q: 第 2 四半期と第 3 四半期の比較でモジュールセグメントの利益率が改善している要因は？

A: スマートフォン向けに高周波モジュールの売上が増加したこと、内製比率の高いモジュールの売上構成割合が増えたことによる品種構成の良化です。

Q: 新型コロナウイルスによる業績影響を教えてください。

A: 影響は現在精査中です。場合によってはサプライチェーンに大きな影響を及ぼす可能性はありますが、現時点ではその影響度合いがどのくらいかという数字を持っておりません。(2020年2月3日時点の状況をもとに回答)

当Q & Aに記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当Q & Aに記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。